一般社団法人
ＭＯＡ自然農法
文化事業団
美幌会

感謝と健康をベースにした　人・家庭・まちづくり

栃の木からの手紙

２０２３年　師走　１２月号

７日：　大雪
１３日：　新月　旧　１１月　１日
２２日：　冬至
２７日：　満月　旧　１１月　１５日

１１月２５日朝、エン麦が隠れる程の本格的な積雪３ｃｍ。２８日朝には、エン麦が見える程度の積雪。左の写真で、赤ビーツを収穫した跡の土が露出していた部分は積雪で真白。エン麦の葉先は枯れ始めています。

越冬エン麦は、１１月９日に春先の排水対策の為にサブソイラという機械で心土破砕を行いました。
１２日には、エン麦が枯れた後の分解を促進する目的で醗酵鶏糞ペレットを反当り 71.7kg 散布しました。本来は、有機質肥料をサブソイラの前に入れたかったのですが、資材の入荷が間に合わなかったのでこの様な作業順序になりました。

【　菊芋　】　１１月４・５日に菊芋を収穫しました。

有機ＪＡＳ畑の端に作付した菊芋。今年は、１７６株程。収穫する頃には黄色の花も終わりはじめ殆どの株が３ｍ前後に成長している。収穫は草刈り機で株元から２０ｃｍ程を残して刈り倒す。刈った木は、植物質の堆肥場へ運んで細かく切断して堆肥化しました。
愈々、菊芋の掘り取り。はじめは、スコップで掘り上げる予定で作業していましたが、最初の４株

を掘っただけでスコップでの作業ではとてもじゃないがやっていられないことに気づきました。４株で３０分。大体３日分の作業。芋の収穫機や芋を堀上げる機械もあるが、使う気にもならない。結局、エン麦の畑に入って菊芋の畝に対して真横からトラクターの土砂バケットで堀上げる事にしました。生命力の強い菊芋は、野良芋を防ぐために芋の破片を残さない様に気を付けなくてはいけない。この方法で作業をしたら１日分の作業で無事に収穫を完了しました。それでも、種が余っているからと、全部植えてしまったことを悔やみながらの作業でした。菊芋の茎は、木のようですね。

収穫の終わった株は全て畑から運び出しました。昨年２０２２年は２０株栽培、収穫量５０ｋｇ程。今年は１７６株で収穫量は２００ｋｇ程で５割程減少しました。来年は、ほどほどに。

菊芋に含まれる天然のインシュリン、「イヌリン」は水溶性の植物繊維で食後の血糖値の上昇を抑える効果があります。また、大腸内で腸内細菌を増やし整腸作用があります。カリウムの働きで血圧を下げる効果もあります。一日の摂取量は２０ｇ程度で下痢にならないくらいに調整。

私は、菊芋を乾燥粉末にして毎朝お茶にスプーン１杯入れて飲んでいます。

【　今年のビーツの状況　】

播種日　　移植日

４月１３日　６４枚　　５月１６・２３日

５月１５日　７２枚　　６月１２・２８日

１枚は１２８株トレーの事。全部でトレー１３６枚。ビーツ苗は１７，４０８株になりますが、１枚のトレーで８割程の生育率ですので１４，０００株程になります。

２０２３年　　食用ビーツ　収穫量

2023年11月27日

面積 24a　　有機JAS

反収量　　1875kg

サイズ等	収穫量	割合
1-100g台	120kg	2.90%
200g台	360kg	8.70%
300ｇ	680kg	16.40%
400g	640kg	15.50%
500ｇ	560kg	13.50%
600ｇ	360kg	8.70%
700ｇ以上	340kg	8.20%
外品	1080kg	26.10%
小計		100%
既出荷	183kg	
廃棄	177kg	

合計	4500kg

１１月２７日、漸く赤ビーツの選別が終わりました。手入れ選別したビーツは重さ毎に分けてビニール袋に入れてミニコンテナに入れて出荷まで芋室で凍れない様に保管します。

出荷といっても「ふるさと２１」の通販以外は地元ＣＯＯＰ札幌のご近所野菜コーナーや道の駅などでの販売となっていて、一部加工にも向けられています。

収穫量について	面積	収穫量	反収穫量
２０２２年	22a	6,485kg	2,947kg
２０２３年	24a	4,500kg	1,875kg

となっていて、前年と比較すると反収穫量が３５％程減っています。これは、植付け時期の旱魃による影響が大きいと思います。また、前年は４回に分けて育苗しましたが、今年はその結果を元にビーツの状態の最良の時期として２回に分けて育苗・移植を行った事で塔立ちが減り、サイズ的にも大玉が極端に減った事が一因かもしれません。　１１月下旬から「ふるさと２１」の通販が始まりました。リピーターがあると嬉しく感じます。